
岡山県旭川流域におけるため池のカメ相

永田聖宣・竹崎千尋・吉村雅子・千田慎太郎・亀崎直樹

岡山理科大学生物地球学部生物地球学科

Species composition of freshwater turtles in ponds surrounding Asahi river.

By Kiyonori NAGATA, Chihiro TAKEZAKI, Masako YOSHIMURA, Shintaro CHIDA and Naoki KAMEZAKI

Department of Biosphere-Geosphere Science, Okayama University of Science

はじめに

近年，外来種であるミシシippアカミミガメが様々な地域に生息し，日本の淡水カメ相がかく乱を受けていると言われる．岡山理科大学動物自然史研究室では，岡山におけるミシシippアカミミガメ・クサガメ・イシガメの分布を調べているが，今回は，岡山市を流れる岡山県旭川流域のため池のカメ相について報告する．

調査方法

2014年5月から9月，2015年4月から10月までの期間中，旭川流域のため池29カ所でカメ罟を使用し，カメを捕獲し，それぞれの池の種組成を明らかにした．捕獲したカメは雌雄の確認，背甲長 (CL)，背甲幅 (CW)，腹甲長 (PL)，体重 (BW) を測定した．

結果と考察

旭川流域の29池の内，90%にあたる23カ所のため池でカメが捕獲された．最も多かったのはクサガメで202個体 (76%)，次いでアカミミガメが62個体 (23%)，イシガメは3個体 (1%) 捕獲された．このことから旭川流域のため池に生息するカメはクサガメが優占することが明らかになった．

クサガメは山間部から河口部にかけての全域に分布するが，アカミミガメの分布する池は比較的瀬戸内海に近いところに多い傾向があった．また，イシガメは3個体すべて平野の田園地帯ではなく，山間部の数カ所に分かれて残存するように見られた．

これらのことから日本に古くから生息していたと考えられるニホンイシガメの生息地に，クサガメが入り込み，現在の状況はそのクサガメがこの地域で優占している状況にあると考えられる．ただし，まだ山間部にはクサガメが完全に入り込んでおらず，そのような場所でイシガメが生き残っていると考えられる．また，アカミミガメは海寄りの地域に導入されたようで，海側からその分布を広げていると考えられる．